

平成30年度 学校経営方針

宮城県多賀城高等学校

I 経営方針

平成30年度は災害科学科全学年がそろそろ完成年度である。2学科体制を完成させ「誰もが未来を創る能力（ちから）」を育成するために不断の努力を惜しまない学校づくりに取り組む。

「防災・減災学習」を学習素材としてとりあげ、21世紀型学力を培うパイロットスクールとしてSSHやユネスコスクールに取り組み、全職員の協力のもとに社会の使命に応える。

II 重点目標と指導の重点

1 確かな学力の育成と効果的な授業の展開

(1) 授業と家庭学習の相互関連による指導の充実

- ①教科会や校内外の研修による授業力の向上
- ②授業と関連付けた家庭学習習慣の確実な定着

(2) 知識・技能の活用による探究心や表現力を育む教育活動の充実

- ①全学における課題研究基礎、課題研究の推進
- ②各教科及び課外活動での探究的学習や問題解決型学習（PBL）の充実

(3) 弛まぬ授業改善と評価の研究と開発

- ①カリキュラム・マネジメントによる授業内容の効率化、ALの拡充やICTの効果的活用による授業改善
- ②多面的な形成的評価方法の開発と指導要録、調査書への活用

(4) 国際的な視野に基づいた学習の研究と開発

- ①防災学習、国際理解学習、自然科学学習を中心としたESDの研究
- ②OECD、JICA等国際機関との連携を通じた国際理解

2 心身の健康と安全教育の展開

(1) 規律ある学校生活と清々しい校風づくり

- ①時間厳守、明朗な挨拶の励行などの基本的生活習慣の確立
- ②交通安全や情報モラルの確立などの安全教育の充実
- ③「多高基準」に見られる自律した生活の実施

(2) 学校行事や生徒会活動、ボランティア活動の充実

- ①委員会活動に代表される生徒会活動の活性化による学校行事の充実
- ②他校生徒との交流活動や地域交流活動の充実
- ③課外活動やインターアクトクラブに代表されるボランティア活動の充実

(3) いじめや不登校傾向生徒の早期発見と組織的対応

- ①細やかな面談やアンケートの実施による生徒の把握といじめ防止対策の充実
- ②カウンセラーの効果的活用等による心のケアの充実

(4) 学習環境や教室環境の整備と健康教育の充実

- ① 清掃の徹底や整理整頓による学習環境の整備
- ② 心身の健康の保持増進を図るために必要な知識及び態度の習得機会の充実

3 変化する社会に対応するキャリア教育の展開

(1) 将来の在り方・生き方を探求し、変化に対応できる実践的な力の育成

社会人講話，アカデミックインターンシップ，夢ナビライブなどの進路行事の有効活用

(2) 3年間を見据えた進学指導体制の確立と課外指導の充実

- ① 実力考査や模擬試験の実施・分析と授業へのフィードバック
- ② 課外講習，土曜ゼミの充実と模擬試験の実施・分析・授業へのフィードバック

(3) 高大連携・高大接続の研究と新たな大学入試の研究

- ① 学習内容・課題研究の連続性や接続性を意識した進路研究と実践
- ② 新たな入試制度の研究，ポートフォリオとAO入試の関係の研究

(4) 新たな学力観を培う学習活動の展開

- ① めまぐるしく変化していく複雑な現代社会に生き抜くための，未知の問題を発見・解決していく実践的な「生きる力」の育成
- ② 多様な人々と協働して新しいことを立ち上げるイノベーションの力を育てる学習活動(ディベート，ゼミ，発表活動)の推進

4 開かれた学校，信頼される学校づくりの展開

(1) パイロットスクールとして他校に紹介できる学習活動の展開

- ① 防災・減災学習の一層の充実と実施例の提供
- ② AL学習，ICT教育，クロスカリキュラムを伴うカリキュラム・マネジメント，問題解決型学習(PBL)の実践事例の発表と，それら先進校との情報交換

(2) 多高通信，ホームページ，PTAだより，オープンスクール，学校公開等の充実

保護者や地域への教育活動の積極的な発信と，理解・協力の更なる推進

(3) 学校評議員制度や外部機関との連携による自己点検・外部評価の充実

教育活動の改善のための評価の有効活用

(4) 地域と協力した防災・減災活動の充実

多賀城市を初めとした自治体・地域ならびに小学校・中学校と連携した防災・減災活動や，大震災の教訓の伝承